

平成21年度一般会計決算の特徴

1 歳入総額、歳出総額とも前年度を上回り、実質収支は、41億円の黒字を確保した。

- 歳入は、経済活動の停滞による企業収益の減少などにより県税収入が減少し、国の経済対策に伴う国庫支出金や、特例債を含む県債が増加した。総額では450億円(2.6%)増加した。
- 歳出は、国の経済危機対策などに伴う交付金や基金を活用した事業の実施に取り組むとともに、事業実施のための基金への積立てが増加した。総額では444億円(2.6%)増加した。

2 県税収入は、法人二税を中心に減少し、ほとんどの税目で減収となった。

- 企業収益の減少や地方法人特別税制度の影響により、法人県民税及び法人事業税が908億円(43.8%)減少するなど、県税全体で1,094億円(14.0%)減少した。
- 歳入総額に占める県税収入の割合は、38.4%で、7.4ポイント下降した。

3 県債収入は、特例債の増加により前年度を上回った。臨時財政対策債等を除いた県債残高は減少した。

- 県債収入が歳入に占める割合は、19.6%で、1.1ポイント上昇した。これは、臨時財政対策債や減収補てん債などの特例債が増加したためである。
- 平成21年度末の県債残高は、3兆2,262億円で、1,594億円の増となったが、臨時財政対策債及び減収補てん債を除く県債については残高が減少している。